

令和5年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和6年3月 31 日

校番	202 127	学校名	広島観智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	全・定・通	本・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標、指標、計画は、適切に設定されている。</li> <li>○全体的に目標値が高く、自己評価が厳しすぎると感じるが、意識の高さが伺え、適正であると判断する。</li> <li>○評価指標について、紙数が許すかぎり詳細な説明(具体的な質問内容等の詳述)が期待される。</li> <li>○短期経営目標の「働き方改革に関する研修」について、評価指標と実績直に一貫性が欲しい。また、同目標の評価指標は、研修回数ではなく、研修の効果・インパクトを中心に捉えるべきで、回数よりもその意味が重要と考える。</li> </ul>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画の進捗状況評価は、適切に行われている。</li> <li>○学校視察の受け入れ(回数や目的)やメディアでの取扱い(新聞、TV、雑誌等での報道)等も、取組の成果として記載していただきたい。内部評価は優先されるべきだが、社会的インパクトは外部評価をみとる重要な指標となる。</li> <li>○「食」は生活の基盤となる。郷土料理や日本料理が留学生の負担とならないような配慮が必要である。「残食率」を下げるだけでなく、食事への「満足度」や「健康度」を高めることも検討してほしい。</li> <li>○評価指標が各項目1つに限られているため、その指標の良し悪しで、全体の評価が決まってしまうことのないよう、評価の工夫が必要であると考え。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標達成に向けた取組は、適切に行われている。</li> <li>○パーソナルプロジェクトで一定の成果を出すことができていることは、高く評価されて良い。</li> <li>○生徒・教職員・保護者の間で、ミッション・ビジョン・バリューの共有が確実に達成されている。(開学当初はこの点で苦労されていたが、現在では確実に解決されている。そのノウハウを学校づくりや学校改革で悩んでいる県内の学校にも共有していただきたい。)</li> <li>○進路先の開拓に向けて、国内外の大学・機関等の調査が計画的に実施されている。</li> <li>○探究的な授業づくりを、各教科において協働してデザインできている。この成果を探究的な教科の授業づくりで悩んでいる県内の学校に発信していただきたい。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価結果の分析は、適切に行われている。</li> <li>○中期経営目標(3)「リーダーとして的人格の陶冶」の意味が、決まりの順守や所属意識・連帯感の醸成に狭められているように見えて、もったいない。成果分析にあるように、本校の生徒には、他者を尊重する力や困難を乗り越えていく姿勢も確実に育っている。こういう側面を積極的に評価し、フィードバックしていきたい。</li> <li>○今年度の成果分析の結果を踏まえ、「メンバーシップ」としてのリーダー像だけでなく、コミュニティをつくり、他者を感化し、文化を変えていく「エージェンシー」としてのリーダー像を交えて目標設定を検討いただきたい。またそういう視点から、結果分析を検討いただきたい。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後の改善方策は、適切に講じられている。</li> <li>○自治的生活のための「規程」(寮則)を定期的に見直す機会を提供している点は特筆に値する。生徒にとって、最も身近な生活の場を民主化させる試みは学校経営上も有益である。</li> <li>○様々なプログラムに参加する機会を提供することで、自分の強みや将来の専攻分野の発見を支援している。パーソナルステートメントづくりを意識しつつも、一人ひとりの可能性や得意を開花させる支援を継続的に実施していただきたい。</li> <li>○知の理論やエッセイ指導も着実に展開されている。次年度に向けて教員間でカリキュラムデザインが継承できる体制を構築してほしい。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の生徒のプレゼンテーション能力は極めて高い。相手と文脈を意識した言葉の選び方、合理的で構造的なストーリー展開、デザインの効果的な使い方、印象的なアーティファクトの作り方、印象的なパフォーマンスの仕方等、いずれにおいてもバランスがよい。</li> <li>○上記の視点から、IB教育がどのような意味や効果を持つのかを、県民に分かりやすく発信していただきたい。</li> <li>○生徒の社会的な課題意識がローカル(島内)に閉じないように、世界的な人権意識や社会正義の議論とローカルな問題を結び付けて議論できるような場を、引き続き構築していただきたい。</li> <li>○来年度いよいよ完成年度となる。早め早めの対応・対処を心がけながら、一層の活躍及びスキルアップを期待したい。</li> </ul>